

さくら第473号

令和元年5月

## さくら

発行所 さくらそらばん  
発行者 平瀬重雄  
春江町境 17-7: Tel.51-1337  
hirase@mx2.fctv.ne.jpあとしや  
できぬんだよ  
なま  
いまのことは  
いましができぬ  
みづも

## 『足もとをたしかめる』

丸岡町竹田のしだれ桜は年々きれいな花を咲かせ見る人の目を楽しませ、開花を待つ人が多いです。たけくらべ広場の川べりに並ぶ120本あまりのサクラの幹はしだれる枝と花が頭にふれるほどです。

4月13日(土)に、しだれ桜祭りが開催され午後からライトアップの点火式が行われ、その時のようすが新聞紙面に載りました。

午後6時30分から9時30分までライトアップされて、川面に映るさくらはライトで明るく、暗い広場のなかにかがやく光がさくらの花をよりきれいに見せています。

かつてその昔、私は竹田小学校へ2年生から6年生まで登校していました。その時の木造校舎は無論建て替えられ、昭和57年(1982年)には、新校舎が落成、創立100周年祭が挙行されました。

その後、児童数も減り続け、2010年には休校となり、2014年3月をもって廃校となりました。児童は丸岡町の長畝小学校へバス通学となり、併設されていた中学校も廃止されました。2016年にかつての校舎は改修工事され坂井市竹田農山村交流センターとなり、「ちくちくぼんぼん」の愛称で宿泊体験もでき、多くの人たちが利用しています。

かつて通った学校が無くなるというのはとてもさみしく、時おり行き、当時の過ごしていた様子を思い起こしたりします。山並みは当時と変わらず、ずっと同じ姿を見せてくれるでしょう。

しだれ桜を愛でて楽しい気持ちでの帰り道、山あいを過ぎて平地となる川上地区があります。竹田川にかかる川上橋の左岸に見事なさくら並木があり、思わず車からおりてカメラを向けていました。

そこへ1台の車が止まり、女形谷(おながたに)の桜がこの近くだと思いますが、わかりませんかと問われ、初耳なので知りませんと言えば、すぐに立ち去りました。

そこで、スマホで調べると数百メートルの近さにあり、ナビに沿って走ると、道路から20mほど下りた所にある見事な桜が目飛び込みます。

大木の周りにはロープが四角に張られています。太くて長い枝を太い柱で支えており12本あります。案内板があり、樹齢は300年以上とあり、スマホで調べると400年という記事もあり、長い長い桜の歴史を感じます。

資料によれば、「おながたにのサクラ」は県下有数のエドヒガンの老木で、根の周りは9.5m、標高15.5m、地上4.5mのところまで幹が2つに分かれており、昭和48年5月1日に福井県指定文化財天然記念物に指定。

小さな神社のなかにもあり、お堂の前にはこま犬が2体鎮座しています。幹の中ほどには、しめ縄が張られ、老木といえども見事なさくらの花はきれいさをほこっています。根本は大人ほどある太くて大きなコブでゴツゴツですが、苔でおおわれ、大木から数センチの細い枝が伸びており、生命力の強さを感じます。

地域の住民の方々が先祖伝来の桜を守り育てているからこそ、今もなお花を咲かせ続けてくれるのです。

この桜を見ながら思うことがあります。身近にある文化財や歴史にはあまり関心や興味をしめさないことがあり、灯台下暗しで気づかないことがいろいろあります。休日などを利用して、近くで、あちこち調べると思わぬ発見があり、たのしくなることでしょう。実行あるのみ。

(写真は2頁に掲載しています)